

シリーズ：進化し続ける産総研のコーディネーション活動(第43回)

関西センターの連携活動

関西産学官連携センター副センター長、イノベーションコーディネータ

まつばら いちろう
松原 一郎

関西地域の特徴

関西地域では多様な産業が展開されており、製造品出荷額で見ると輸送用機械以外はほぼ全国平均と同様の産業形態となっています。したがって、関西地域には幅広い産業分野からのニーズが存在します。その中で関西センターでは、1)新材料開発支援による蓄電池産業育成、2)産総研地域研究開発によるバイオ医薬産業の育成、3)組込み産業高度化支援とソフトウェア認証技術開発による組込みシステム産業の育成、という3つの地域イノベーションプランに、地域の諸機関と協力して取り組んでいます。さらに、グローバル化も視野に入れ、産学官連携の広範な体制を整備しているところです。そこで本稿では、関西センターの連携活動を紹介します。

連携活動の紹介

関西センターでは、イノベーションコーディネータが日常活動として各種企業との接触やシーズ・ニーズマッチングを行っています。これに加えて、関西地域の膨大な企業集積をカバーする効率的な方法として、多数の企業と関連している機関・団体と連携することにより、産総研が支援可能な案件の情報を入手できる体制を整えています。一例としては、産総研の外部研究員制度の一つである「研究支援アドバイザー」を利用するものです。関西地域にある10の公設試験研究機関(公設研)のそれぞれ1名に研究支援アドバイザーに就任していただきました。産総研側には担当イノベーションコーディネータを1名配置し、各府県の中小企業などのニーズに関する情報を組織的、かつ効率的に収集できるようにしました。

グローバル化対応としては、ドイツのフラウンホーファー協会(FhG)の生産技術・オートメーション研究所(IPA)と高分子アクチュエーターに関する連携協議を行い、関西セ

ンターとIPAの連携シンポジウムを実施しました。さらに、2012年7月にはFhGと包括協定を締結しました。また、FhGの生物医学技術研究所との人間計測に関する連携も進めています。アジア地域では、2011年度から組込みシステム産業振興機構(関西経済連合会)と連携し、ベトナムの企業、研究機関、大学を訪問するなど、連携を深めています。

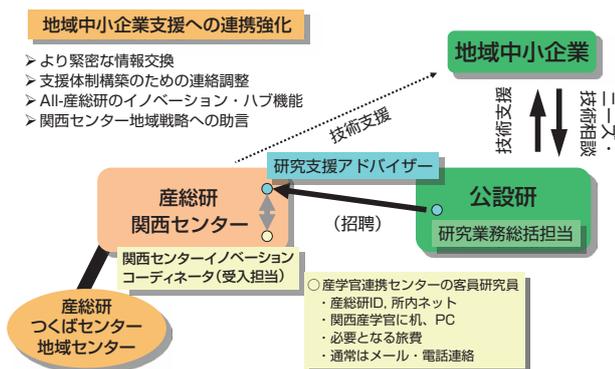
地域イノベーションプランの一つであるバイオ医薬産業育成では、オール産総研体制が機能しました。具体的には、産総研内のプロジェクトで、つくば、北海道、関西の各地域センターが一体となって新技術の開発に取り組みました。その中で核酸修飾に関する成果はすでに企業に技術移転しています。

大学との関係では、関西地域の主要大学である、京都大学、大阪大学、大阪府立大学と包括連携協定を締結しました。神戸大学との連携協議も進めています。また、関西の7つの高等専門学校(国立4、公立2、私立1)との覚書を2011年度に締結し、技術展示などで協力しています。

2012年度には、産総研、大学、公設研、研究開発支援機関、企業支援機関が一堂に会する近畿イノベーション創出協議会を、実効的な活動ができるように改組しました。この協議会は、関西において大学と公設研が一堂に会する唯一の組織であり、関西地域の広範な産学官連携の構築に貢献しています。

今後の方向

連携の構築は個人の人的ネットワークに多くを依存しています。個人のネットワークをさらに活かすために、関西センターでは組織的な仕組み作りを心がけています。個人の繋がりや努力と組織的な制度を組み合わせることで、限られた人的資源で効率的に連携を構築できると考えています。



研究支援アドバイザー制度を用いた地域中小企業支援への連携強化



講演中の筆者